

# 実践記録

166

シリーズ

## 「多世代多地域で つながる煮菜の日 笑顔の日」

NPO法人多世代交流館になニーナ 副代表 馬場 裕子

### 〈こんにちは。になニーナです〉

私たちの団体、通称「になニーナ」は、一人ひとりが生きがいを持てるようなきっかけを作り、世代や文化、分野を超えて交流することにより、個々の生活がより豊かに、元気になっていく社会づくりのお手伝いをしています。

現在は長岡蓮濁に拠点を置き、多くの方々の寄付によって完成した小さなプレハブを活用し「子育てサロン」「健康お茶会」「手仕事カフェ」などの交流サロンの開催、スタッフのスキルを生かした身体や食をテーマにした教室、郷土料理の伝承を通じての多世代交流企画、会員による多種多様の企画の開催など、多地域多世代が集える日常づくりを目指し、日々子育て世代のママたちを中心にしたスタッフが奮闘しています。



### 〈名前の由来は煮菜から〉

「になニーナの名前には、どんな意味があるんですか？」とよく聞かれますが、長岡地域の郷土料理「煮菜」から名前をつけました。名前に合わせて2月7日を「煮菜の日」と命名。活動によりつながりができた多地域の料理上手なお母さん方に、自慢の煮菜を持ち寄ってもらい、味も色も具材も様々な煮菜が並び、みんなで会食する「煮菜の日」を開館以来毎年開催しています。

6回目になる今年の煮菜の日は(2/7(火)パストラル長岡で開催)新潟県家庭教育支援民間提案型協働事業の助成を受け、過去最高の参加人数50人を想定しました。そこに、煮菜を作ってきてくれる地域のお母さん方、になニーナスタッフ、協力団体等あわせると、総勢100人での煮菜の日開催。これだけの規模の企画が開催できるようになった事は、今までの活動で培ってきたネットワークがあってこそ。中山間地のお母さん・お父さん方との世代を超えた温かいつながり・そのつながりを作り、サポートしてくれる復興支援員・若いパワーの学生ボランティア・になニーナの活動に賛同する企業など、多世代多業種多地域の人たちに支えられています。

### 〈煮菜の日が生み出す笑顔〉

昨年の煮菜の日は0歳から70歳代まで約30名が集い6種類の煮菜を味わいながら笑いあふれる交流会

となりました。実演をされた料理上手のTさんは自分で栽培した味美菜を用い、色鮮やかな煮菜の作り方を披露。その様子がテレビで放映されると、翌日は「テレビ見たよ」「今度うちにも作りに来て」と、友人知人から家の電話がなりっぱなしだったと、後日とてもうれしそうに話してくれました。

小さいお子さんを連れて参加された方は、「うちの子こんなに野菜を食べたの初めて!」「こどもが喜んで食べたので、家でも作ってみます!」と、こどもの喜ぶ姿に母親もにっこり。

そんな小さなお子さんを見て、煮菜作り名人のおばあちゃん世代は「子どもはかわいいねー」「抱いてやるからゆっくり食べなさい。」と、高齢化の進む集落では触れ合うことのない子どものあどけない姿に目を細めていました。

以前、別の企画で中山間地の高齢者と子育て世代との交流を行った「多世代交流会」がテレビ放映された時、集落のおじいちゃんが語っていた言葉が深く胸に残っています。「いつもなら、一人でごはんを食べるけど、今日は大勢で食べれて本当に楽しいし、幸せだ。もう、家に帰りたくない」この心情は、密室育児と言われる子育て世代も同様に感じていることではないでしょうか。

いつもなら、煮菜を作ってもあたり前に扱われる食が、煮菜の日はすばらしい郷土の宝としてスポットライトを浴びます。それと同じように、家庭や限られた地域を飛び出し、多地域多世代との交流の場を持つことで、互いに見えないよさが見え、認め合い、一人ひとりを輝かせ、新たな生きがいへつながるきっかけとなれば、大変嬉しい事であります。

今年の煮菜の日は、育児に積極的に関わる今流行の「イクメン」の参加も積極的に行います。料理男子も増えていく中、父親が煮菜の作り方を覚えることもいいですね。

郷土料理を家族で囲み、美味しい食卓から温かい家庭がはぐくまれる。その笑顔は地域に広がり、料理を伝えてくれた親世代へ恩返しができる。

多世代多地域多業種の皆さんと協働しながら、今年も美味しい煮菜で笑顔があふれる会を目指します。



問・申：多世代交流館になニーナ TEL 28-8627  
(平日10~16時)